川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

平成２９年　９月
川越町教育委員会

本年４月、小学校６年生及び中学校３年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1. 学力･学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について
Ａ問題とは、主として「知識」に関する問題です。（身につけておくべき基礎的な知識や技術）
Ｂ問題とは、主として「活用」に関する問題です。（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

（１）川越町小学校

□全体の傾向・・・二極化に改善傾向が見られ、全国及び県の正答数分布曲線に近づく結果となっている。

国語Ａ：正答率のやや低い児童が一部見られる。
国語Ｂ：正答率のやや高い児童の割合も多いが、正答率の低い児童が一部見られる。
算数Ａ：正答率のやや高い児童の割合も多いが、正答率のやや低い児童が一部見られる。
算数Ｂ：正答率の高い児童も一部見られるが、正答率のやや低い児童の割合が多い。

□強みと弱み（強み・・・「◎」　弱み・・・「◇」

	Ａ問題	Ｂ問題
国語	◎ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができている。 ◇目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む力に課題がある。 ◇問題によって、漢字の読み書きの正答率にばらつきがある。	◎目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えることができている。 ◇目的や意図に応じて文章から引用して書くことを苦手とする児童の割合が多い。 ◇会話のやり取りの文章を読んで相手の発言の意図が捉えられない。 ◇与えられた条件に応じて記述解答することが苦手な児童が多い。
算数	◎全体的に無解答率が低く、どの子もよく取り組めている。 ◎数と計算領域の問題については、理	◎示された考えを解釈し、他の場合にあてはめて処理できる児童が多い。 ◇数学的表現を用いて自分で考えたこと

算数	解できている児童が多い。 ◇任意単位（同種の量の幾つ分）による測定について理解できていない児童が多い。 ◇表に示された数値の意味を理解し、整理することを苦手としている児童が多い。	を文章で説明する力に課題がある。 ◇日常生活の問題解決のために、必要な情報を選択し数学的に処理したり、示された方法を場面に応じて適用したりすることができない児童の割合が多い。

（２）川越町中学校

□全体の傾向・・・A 問題において二極化傾向がやや見られるものの、全国及び県の正答数分布曲線におおよそ近い結果となっている。

国語 A：正答率がやや低い生徒が見られる。
国語 B：正答率のやや低い生徒が見られる。
数学 A：正答率のやや低い生徒が多く見られる。
数学 B：正答率のやや低い生徒の割合が多い。

□強みと弱み（強み・・・「◎」　弱み・・・「◇」

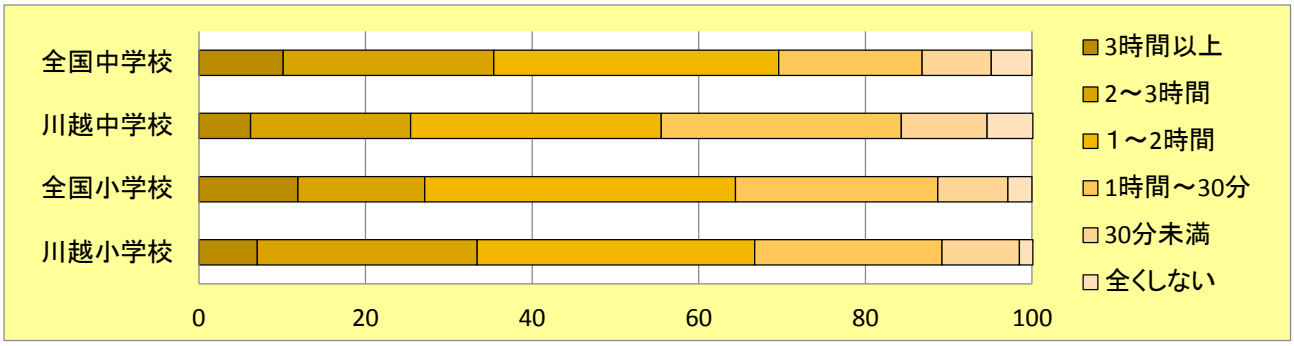
	A 問題	B 問題
国語	◎全体的に無解答率が低い。 ◎目的に応じて資料を効果的に活用して話すことができる。 ◇文章の構成を工夫してわかりやすく書く力に課題がある。 ◇場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができない児童の割合が多い。 ◇相手に分かりやすいように語句を選択して話す力に課題がある。 ◇伝統的な文化と国語の特質に関する事項からの出題を苦手とする生徒が多い。	◎全体的に無解答率が低い。 ◎場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することができている。 ◎目的に応じて必要な情報を読み取ることができる生徒の割合が多い。 ◇比喩を用いた表現の仕方に着目し、自分の考えを書くことに課題がある。 ◇相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことに課題がある。 ◇与えられた条件に応じて記述解答することが苦手な生徒が多い。
数学	◎全体的に無解答率が低い。 ◎一元一次方程式など、数と式の基本的な問題はできている。 ◎多角形の内角の和の求め方を理解している生徒の割合が多い。 ◇範囲の意味を理解していない生徒、度数分布表から相対度数を求めることができない生徒の割合が多い。 ◇関数の意味の理解については課題がある。	◎全体的に無解答率が低い。 ◎与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。 ◇２つの図形の関係を回転移動に着目して捉え解答する問いなど、事象を数学的に解釈し、その理由や方法について数学的な表現を用いて説明することができない生徒の割合が多い。

（３）児童生徒質問紙による生活調査結果

①学習時間帯

＊小学生は家庭学習の時間を確保しているが、中学生の家庭学習の時間は少ない。

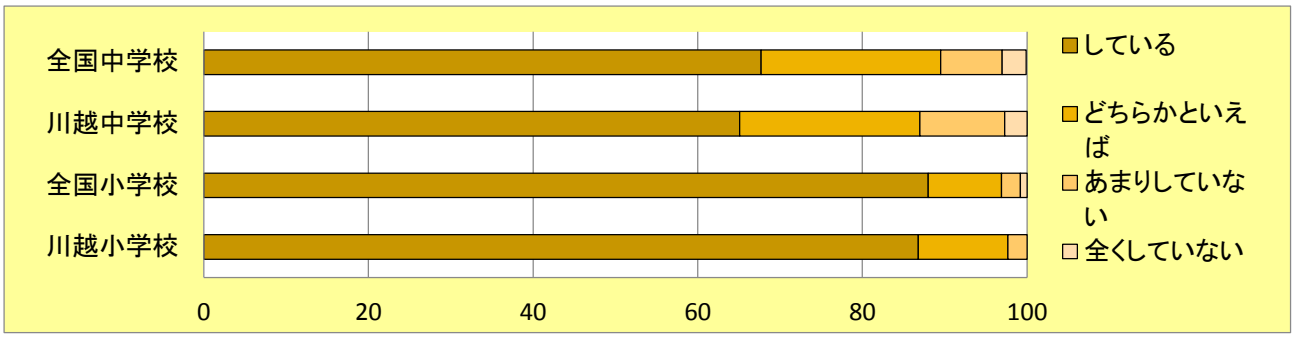
Ｑ：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）



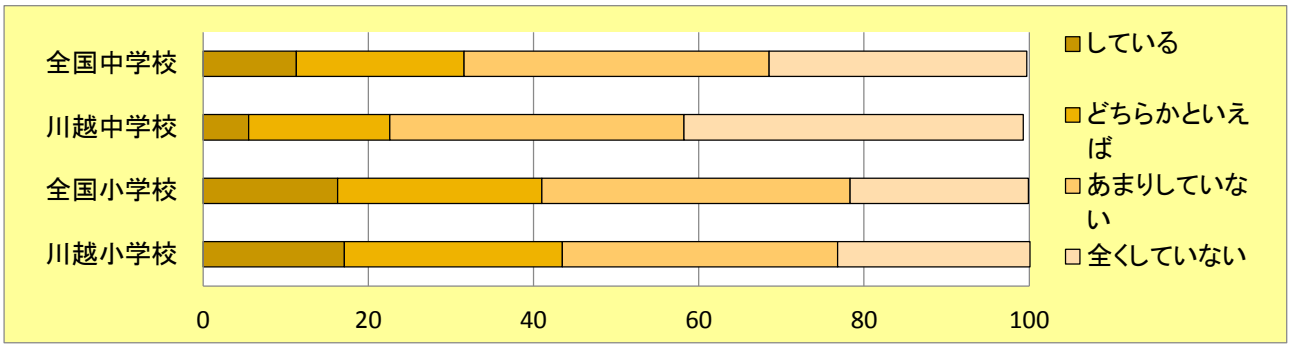
②予習・復習

＊宿題についてはほとんどの子どもたちが取り組めている。しかし、小学生・中学生とも予習・復習に時間をかける子の割合が低く、特に中学生は予習に費やす時間の割合が低い。

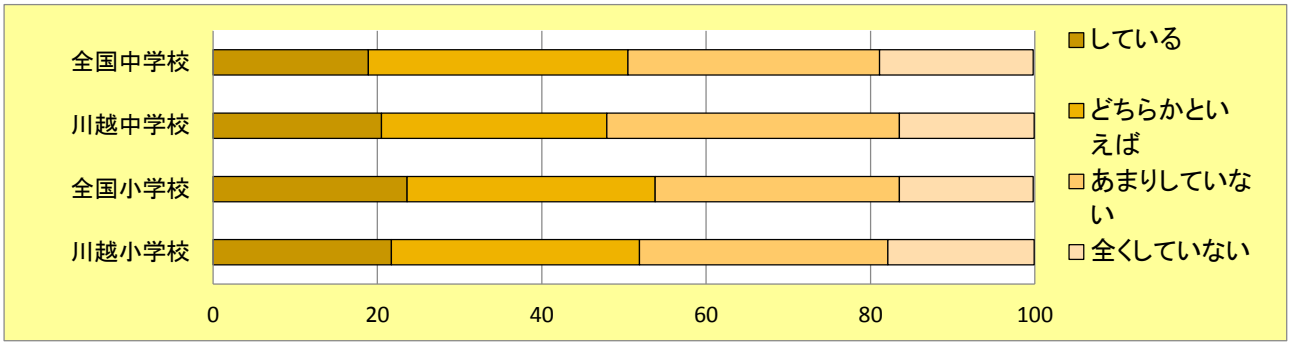
Ｑ：家で宿題をしていますか。



Ｑ：家で学校の授業の予習をしていますか。



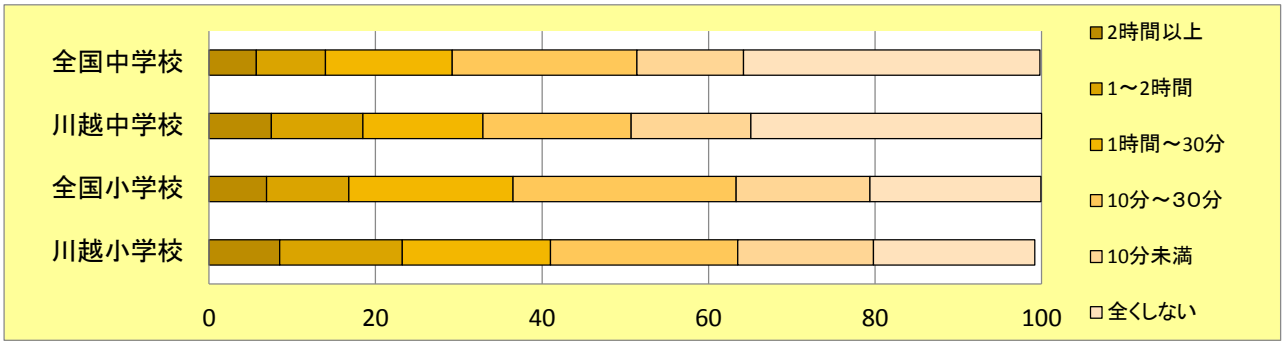
Ｑ：家で学校の授業の復習をしていますか。



③読書習慣

＊半数以上の子どもたちがほぼ毎日読書をしているが、その一方で、特に中学生において「全く読書をしない」子どもたちの割合も高い。

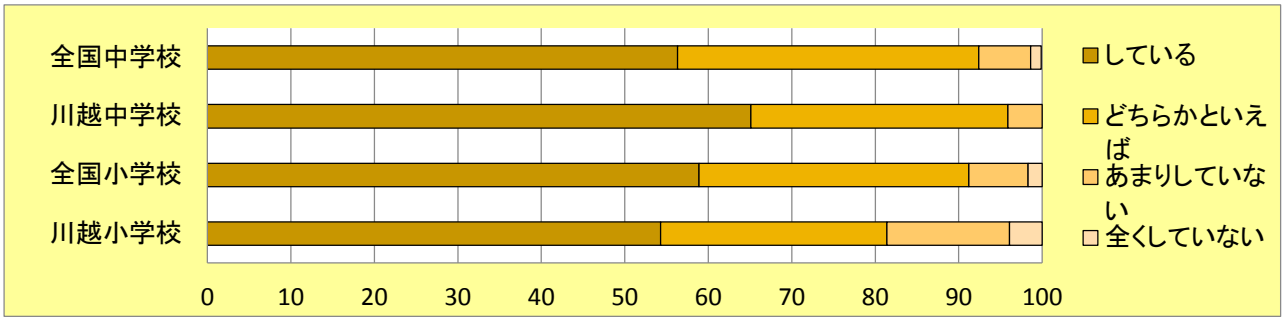
Ｑ：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。



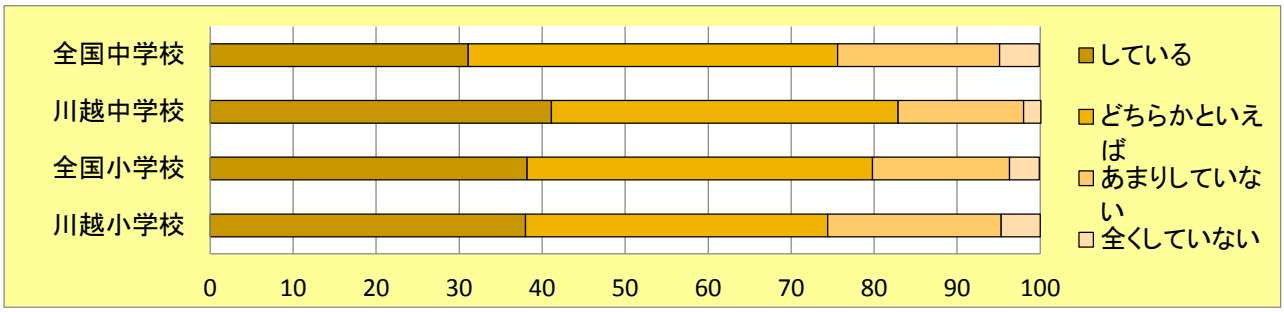
④基本的生活習慣

＊中学生は、ほぼ規則正しい起床・就寝時間が守られている。小学生は、起床・就寝時間とも不規則な児童がやや多い。

Ｑ：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



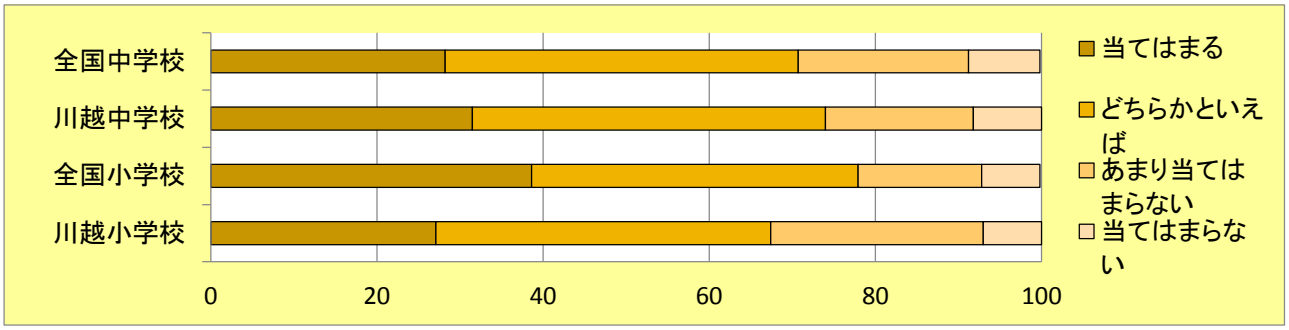
Ｑ：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



⑤自尊感情

＊中学生は自尊感情の高い子どもの割合が高いが、小学生は自尊感情の高い子どもの割合が低い。

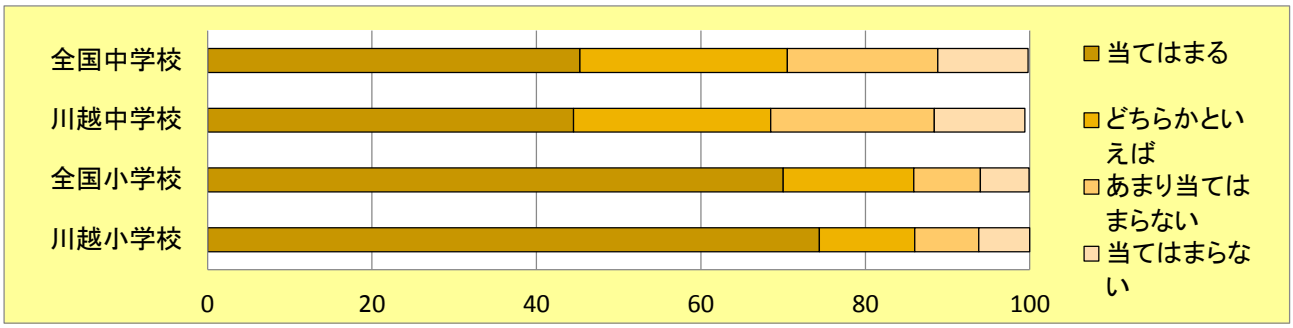
Ｑ：自分には、よいところがあると思いますか。



⑥キャリアの形成

＊小学生・中学生とも、概ね将来の夢や目標を持っており、特に小学生においてその割合が高い。

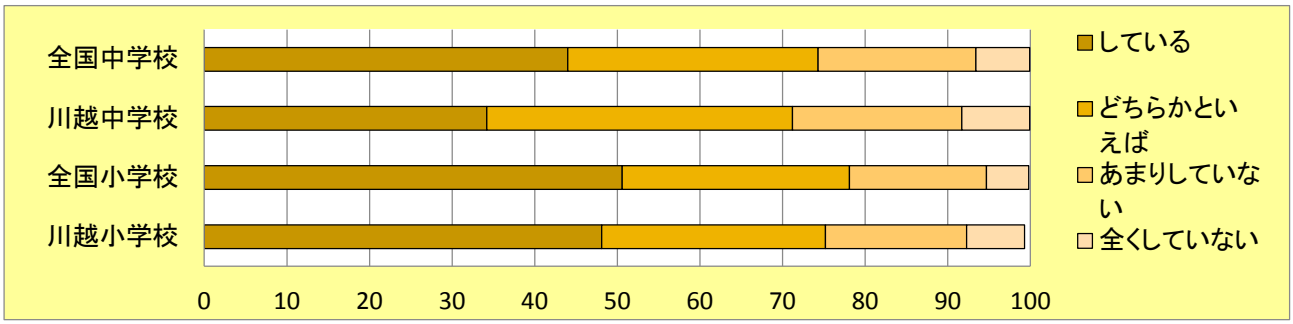
Ｑ：将来の夢や目標を持っていますか。



⑦家庭でのコミュニケーション

＊小学生・中学生とも、家庭でのコミュニケーションの機会がやや少ない。

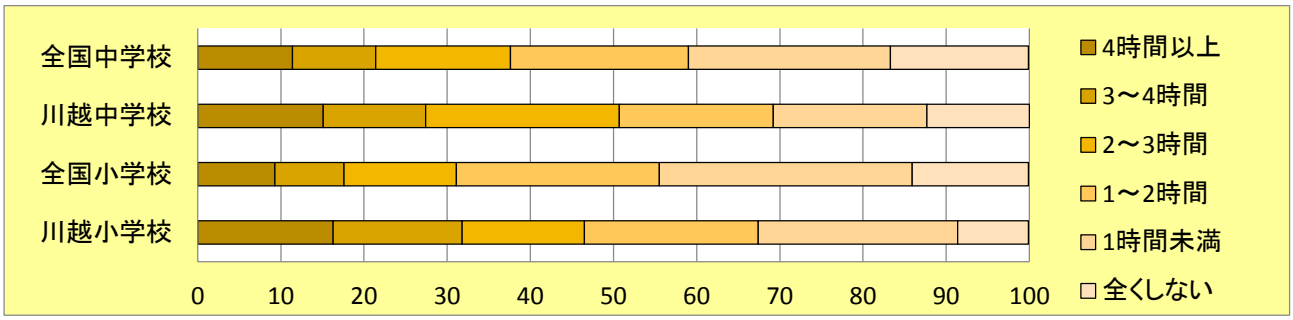
Ｑ：家の人と学校での出来事について話をしていますか。



⑧ゲームの時間

＊小学生・中学生ともに、約30%の子どもたちが１日に3時間以上ゲーム等に時間を費やしている。

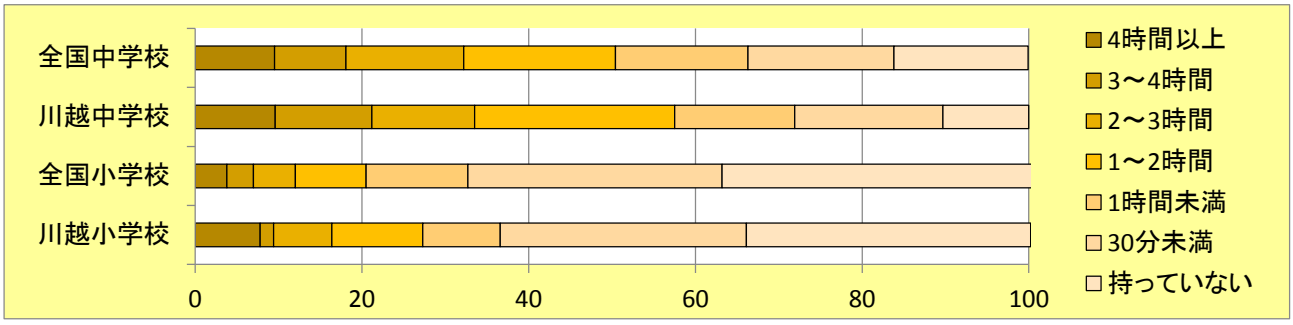
Ｑ：普段（月～金曜日）１日にどれくらいゲーム（ＰＣ、スマートフォン等のゲームを含む）をしますか。



⑨メール・インターネットの時間

＊小学生の約30%、中学生の約60%が １ 日のうち １ 時間以上メールやインターネットに時間を費やしている。

Ｑ：普段（月～金曜日）１日にどれくらいメールやインターネットをしますか。



（４）学校質問紙の結果からみえる児童生徒の姿

①見通しをもった学習・確かな学力（めあてとふり返りの提示）

「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れたか」という問いに対し、小中学校とも「よく行った」と回答している。これに対し、児童生徒質問紙において、小学生の８６％、中学生の９１％が、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答している。また、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか」という問いに対し、小学校では「よく行った」、中学校では「行った」と回答している。これに対しては、小学生の８２％、中学生の６４％が、「学習内容を振り返る活動を行った」と回答しており、学校の取組と児童生徒の受け取りがおおむね一致している。

継続的な授業改善により平均正答率は上昇しており、得点の二極化も解消に向かっている。今後も、「何を学ぶのか」「何ができるようになるのか」「どのように学ぶのか」といった、明確にねらいを定めた授業を行うことが重要である。

②落ち着いた学習環境の維持（学習規律）

「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど）の維持を徹底したか」という問いに対し、小学校では「行った」、中学校では「よく行った」と回答している。これに対し、児童生徒質問紙において、小学生の８５％、中学生の９７％が、「学校のきまり（規則）を守っている」と回答しており、学校の取組と児童生徒の受け取りがおおむね一致している。

当町小中学校で共通した『学びのルール』により、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている。このことが、普段から粘り強く学習課題に取り組む子どもたちの姿に表れており、無答率の低下につながっている。

③やる気を生み出す個別評価（自尊感情）

「学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け、児童（生徒）に伝えるなど積極的に評価したか」という問いに対し、小中学校とも「よく行った」と回答している。これに対し、児童生徒質問紙において「自分にはよいところがある」と回答しているのは、小学生の６７％、中学生の７４％という結果であった。

クロス集計によると、特に学力調査の国語 B、算数（数学）B において、「自分にはよいところがある」と回答している子どもの方が正答率も高いという結果が出ている。自尊感情の育成には、学校生活の中で仲間と感情を共有することが重要な要素となる。今後も意欲を持って挑戦しようとする機会を意識的に設定し、一人一人のよい点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへとつなげていく必要がある。

2. 教科に関する調査結果から見えてくることと対策

（１）小学校

国語

- 与えられた文字数や条件に合わせて、よりよくまとめたり書いたりする力に課題がある。
- 初めて向き合う文章に対して、根気よく読んだり考えたりすることが苦手である。
- 複数の資料から必要な情報を選択し、関連付けて思考することに慣れていない。

算数

- 数と計算領域の問題については理解できている児童が多いが、数学的表現を用いて自分で考えたことを文章で説明する力に課題のある児童も多い。
- 任意単位（同種の量の幾つ分）による測定の理解ができていない児童が多いという結果から、量の測定の学習における「直接比較→間接比較→任意単位による測定→普遍単位（多くの人が共通に利用する単位）による測定」といった学習経験を活かして解答できていない児童が多いことが伺える。

（２）中学校

国語

- 伝統的な文化と国語の特質に関する事項からの出題を苦手とする生徒の割合が多い。
- 資料から必要な情報を取り出しながら、与えられた条件に応じて自分の考えを書くことに課題がある。

数学

- 関数・範囲の意味の理解については課題がある。また、度数分布表から相対度数を求めることができない生徒の割合が多い。
- 理由や方法を問う設問に対して、数学的な表現を使って説明することに課題がある。

（３）課題を解決するための手立てや指導改善について

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つけたい力を明確にし、児童生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう取り組みを進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 自分の考えを整理して書く力をつけるためのノート指導を行う。
3. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実
   ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。
2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫
   ・漢字や語句、比喩や反復などの技法を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
   ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。
3. 自分の考えをまとめる活動の充実
   ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふり返りの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。
   ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
4. 音読の習慣
   ・特に小学校においては、声に出してしっかり読むことを習慣づけて、正確に読み取る力の基盤作りを徹底する。

算数・数学

1. 基礎的な力をつける時間の確保
   - 基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。
2. わかる授業を目指した授業展開の工夫
   - 「なぜ普遍単位（多くの人が共通に利用する単位）が必要なのか？」「日常生活の中で関数を使うと便利な場面は？」など、日常生活や社会の事象や数学の事象から課題を見出し、主体的に取り組む数学的活動を取り入れた授業を展開していく。
   - 数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
   - 言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
   - 「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 町教育委員会による手立て

（１）少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的基本的な力の向上を目指します。

（２）きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員の配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

（３）学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

（４）校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教委の指導主事が各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

（５）家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙（ごい）量を増やしていきます。

（６）自己有用感の向上

「子どもが挑戦する場」を学校や家庭・地域で引き続き意図的に設定していきます。これらの機会を活かし、子どもたちの活動の結果だけを見て評価するのではなく、個々の伸長を見つめ承認していくことで自己有用感の向上を図ります。「挑戦」→「自信」→「成長」→「興味・関心」→「挑戦」・・・というサイクルを大切にして児童生徒の自尊感情を高めていきます。

4. 家庭・地域へのお願い

（１）家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、ほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

- 毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- 机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。
- 教科書やノート、学習用具の整理整頓に心がける。

（２）テレビ、ゲーム、スマートフォン等の上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

全国に比べて当町の子どもたちは、テレビ、ゲーム、スマートフォンに費やす時間が多い傾向にあります。テレビやゲームを楽しむ時間や、携帯電話およびスマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の望ましい活用については、大人の行動から見本を示すことができるようにしましょう。

例）毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。
　　夜の１０時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。
　　リビング以外でパソコンは使わない。　　など

（３）難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

全国的に、自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事ができた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等に注目するのではなく、過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

（４）親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

語彙（ごい）の量と質の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。はじめは受動的な読書かもしれません。しかし、その時間を継続的にもつことで、やがて子ども自らが本と向き合うことのできる能動的な読書へつながっていくと考えます。ぜひ、子どもたちの「本を読んでほしい」「本を読みたい」という気持ちを大切にしていきましょう。

みえの学力向上県民運動
学校・家庭・地域の教育力を高めよう！　みえの学力向上　検索